

平成28年度 別海町教育行政執行方針

教育長 眞 籠 毅



I はじめに

昨年は、スポーツ界において日本中が沸いた出来事がありました。

イングランドで開催されたラグビーのワールドカップにおいて、日本が強豪南アフリカに歴史的勝利を飾り3勝をあげるなど、私たちに夢と希望を与えてくれました。

また、本町の中学生野球大会においても全道大会や全国大会に出場し、すばらしい功績を残し、更に全国中学校スケート大会では、大会新記録で優勝するといった快挙もありました。

これらのことは本人たちのたゆまぬ努力やそれらを支える関係者の協力や理解、そし

て町を挙げて取り組んできた生涯スポーツの振興の積み重ねにより育まれてきたものと確信しています。

学校と家庭、さらに地域がそれぞれの教育機能を発揮し、まちぐるみで学ぶ心を育み、夢や希望、生きがいをもてる子どもたちを育てていくことが最も重要となつてきます。

本町では生き抜く力を育てていくために、さらに「教師力の向上」、「学力向上」と「生活力・体力向上」に努め、地域性や子どもたちの実態に見合う取り組みを行っていきます。そして、先人が残してくれた伝統と財産を引き継ぎ、「夢と希望にあふれ 輝きに満ちた ふるさとを切り拓く町民を育む」を教育の基本理念に、将来を担う子どもたちのために、教育行政を執行します。

II 主要施策の推進

1 生涯学習の振興

生涯学習の目的は、私たちが町民が豊かな生活を送るために、社会で生きる力を身に付

け、持続可能な潤いのあるふるさとづくりを進めていくことにあります。生涯を通じて自身に必要な知識や能力を認識し、他者とのかわり合いや実生活の中で応用し、実践できる力を身に付けることが大切です。

また、学習で身につけた力を生かして、町民一人ひとりが心の豊かさをもたらす潤いのある地域づくりを進めていくことが重要です。

そのためには、学びの中核を担う施設の整備や関係機関との連携を進めていかなければなりません。

本町の生涯学習の拠点であり、人づくり・まちづくりの中核となる（仮称）生涯学習センターの建設については、基本構想を基に、「まちづくり構想」の中で、引き続きよりよい方向へと検討を重ねます。

生涯学習推進の実践研究機関である「別海町生涯教育研究所」の機能を高め、成長の発達課題を示した「学びの木」の普及等、町内のあらゆる組織を有効に活用しながら、生涯学習を振興します。一方、将来に渡つ

2 学校教育の充実

本町の地域性を生かした別海型の学校教育の構築を目指し、各中学校区で小・中連携型一貫教育を推進し、学力や体力・生活力、教師力の向上、特別支援教育の推進、幼児教育の充実などに努めています。学力の向上については、昨年度の「全国学力・学習状況調査」では小学校が全国平均と同程度、中学校が全国平均よりやや低いという結果となり、予断を許さない状況です。

本年度は、本町の独自事業である「生き抜く力向上策定プロジェクト」を中心に、学校規模に応じた授業展開の改善や実効性のある校内研修の工夫など、子どもの実態に応じた学習指導の充実に努めます。

体力・生活力の向上については、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」で、体の柔軟性や瞬発力を測定する種目の結果が過去3年間において全国平均を下回っています。

また、食に関する指導においても肥満傾向の改善が図られておらず、偏食や少食、孤食など子どもたちの食環境には依然課題が見られます。

本年度も「食と運動をコン



成」を目指し、「孫わ（は）優しい」レシピコンテストに取り組み、学校給食を活用した食育指導の充実を一層図ります。

さらに、全校縄跳びの推奨や中学校教員が小学校に出向いて体育の授業を行う「出前体育授業」、校舎内外の空間を活用した子ども達の体力向上に関する園校一実践に取り組み、基礎体力の向上に努めます。

教師力の向上については、本年度も「別海の子どもは、私たちが育てる」を合言葉に、外部講師を招聘した模擬授業や学習過程を意識した場面指導、学校課題を解決するための先進校視察など、研修形態を工夫しながら授業改善に努めます。

生徒指導の充実については、学期ごとに子ども理解支援ツール「ほっと」などを活用し、子どもの心理面を把握する調査を行うなど、よりよい人間関係づくりが実現できるよう指導します。

また、小・中学校の不登校傾向にある子どもの対応については、今後も教育相談の充実やふれあいるーむ、臨床心理士の活用等、積極的な生徒指導の充実に努めます。

特別支援教育の推進につい



ては、教育支援委員会の機能を活用し、特別な支援を要する子どもへの配慮等を学ぶ研修会や早期保護者相談の実施など、子ども一人ひとりの発達のニーズに応える教育環境の改善に努め、将来の社会参加や自立に向けた支援ができるような施策を推進します。

幼児教育の充実については、就学段階における滑らかな学びの接続ができるよう、遊びや生活、人間関係づくりなど幼児教育段階に必要なアプローチカリキュラムや、学びの芽生えを活かした小学校段階におけるスタートカリキュラムの充実を図ります。

本年度の学校施設等の整備については、中春別中学校の外構工事や上西春別中学校の

校舎建築等に取り組みます。

また、ICT活用教育の充実を図るため、小・中学校教育用コンピュータ整備事業の一環として実物投影機等を導入し、全ての子ども達の基礎的な学力の向上を図るとともに、校務運営システムの導入を検討しながら教員の子どもと向き合う時間の確保に努めます。

3 社会教育の推進

社会教育は、人々の自由かつ主体的で多様な学び合いを中心とした自己形成の営みです。誰もがいきがいを感じ、人生を心豊かに充実したものにするためには、多様な学びが様々な場所で主体的に行われる必要があります。

そのため、多様な学習活動を保障するための条件整備や環境醸成を図り、町民の皆様の意見を聞きながら、地域住民自らが主体的に活動できるよう求めにに応じ、必要な支援を行います。

公民館では、地域住民のいちばん身近な学びの拠点として学習機会の提供に努めるとともに、よりよい地域づくりの拠点としての役割を果たしていきます。また、公民館に集う人と人とのつながりを大切にしながら地域住民間の絆

を築き、地域コミュニティの形成を目指します。

町内に8大学を設けている「別海町平成寿大学」では、多くの学生が生き生きと学び、皆勤の学生も多く、熱心に自らの教養に磨きをかける姿が見られます。これからも、魅力ある学習機会を提供するとともに、自己の経験や学習の成果を地域や異世代に還元できるような内容の充実を図ります。

乳幼児を持つ家庭を対象とした「乳幼児母親家庭教育学級」は、子育てに戸惑いと不安を抱えている若い母親たちが子育てについて学び合い、情報交換を行う貴重な場となっています。これからも、子育てに自信をもって取り組める学習機会を提供するとともに、安心して子育てができるよう充実を図ります。

図書館では、地域の読書活動の振興を担うとともに、町民の多様な学習を支援する情報の拠点として、町民のニーズや地域課題に対応する様々な情報提供を行います。

また、図書館から遠い地域にも学習情報を提供するため、町内47ヶ所をステーションに指定し、移動図書館車による本の貸し出しを行います。移動図書館車を更新し、誰もが

主体的に学ぶことのできる機会を提供するとともに、読書活動の普及、推進を図ります。昨年度実施した「生活と健康に関するアンケート調査」での読書活動に関する項目の結果では、本町の子どもたちの読書離れの傾向は依然として続いている状況です。

そのため、「別海町子ども読書活動推進計画」を作成し、子どもたちが生活する様々な場所において自主的に読書活動を行うことができるようにするとともに、読書環境の整備、学校、家庭、地域が果たすべき役割についての方向性を定め、子どもたちの読書活動を総合的、計画的に推進します。

「第3次社会教育中期振興計画」は、後期アクションプログラムの8年目を迎えています。このプログラムに基づき、「人づくり」や「協働のまちづくり」の実践に積極的に取り組めます。

4 青少年の健全育成

町独自で取り組んでいる「メディアコントロールシート」を活用し、子どもが主体的にメディアとの付き合い方を考える取り組みを通して基本的な生活習慣の定着と情報モ

ラルの徹底を図り、情報端末機器（SNS）の利用を午後10時には止める「スイッチOFF22」を提唱するなど、家庭や地域と連携しながらメディアリテラシーの一層の向上を図ります。

また、いじめの未然防止については子ども一人ひとりがお互いに思いやる雰囲気づくりが何よりも大切であり、「別海町子どものいじめ防止に関する基本方針」に基づき、子どもがお互いの気持ちを積極的に伝え合い、日常のコミュニケーションの活性化が図られるよう、子ども同士の登下校における挨拶を充実させます。

本年度の友好都市「青少年女ふれあいの翼」交流事業で



は、枚方市の中学生15名を受け入れ、尾岱沼ふれあいキャンプ場での野外活動や研修牧場を利用した酪農体験など、本町ならではの豊かな自然や産業に触れる機会を提供し、一層の交流を図ります。

次代を担う酪農後継者が、今後の酪農経営や地域づくりの指導者として必要な国際的感覚、視野、資質を身に付けることを目的とした、別海高等学校海外研修事業に対し、派遣費補助等を引き続き行います。

5 芸術、文化の振興

自他の国や地域の伝統、文化について理解を深め、国際社会の一員としての自覚をもった人材を育成することが求められています。

公民館を中心とした学ぶ機会や芸術文化に触れる機会を提供し、活発な活動を展開している別海町文化連盟の各団体、サークルの自主的な活動など、多くの町民が積極的に参加、創造できる環境づくりに努めます。

史跡旧奥行臼駅通所保存事業については、平成25年度策定の「史跡旧奥行臼駅通所保存管理計画」に基づき、本年度から旧奥行臼駅通所修理工



事を行います。

北海道の天然記念物に指定されているヤチカンバ群落地を恒久的に保護していくため、植物の専門家による「西別渥原ヤチカンバ群落地保護対策検討委員会」による保護対策計画の策定、推進に努めます。子どもたちの郷土学習の充実を図るため、「旧柏野尋常小学校奉安殿」や「西別渥原ヤチカンバ群落地」などの指定文化財や町歴史文化遺産を含めた歴史的財産を活用します。

郷土資料館では、町内の歴史・文化・自然に関わる資料の収集、整備保管、調査研究を進めます。昨年度まで整備してきた開拓の苦勞を偲ぶ農器具、民具等が収蔵展示され

ている旧豊原小学校校舎を郷土資料館分館として開館し、積極的に活用した「ふるさと講座」や「郷土学習出前講座」などの教育普及活動を展開します。

6 スポーツの振興

スポーツは、私たち町民に大きな夢と感動を与え、ともに、明るく豊かな活力に満ちた社会の形成を担います。

また、町民が生涯を通じて心身ともに健康で充実した生活を営む上でもスポーツの振興は欠かすことができません。そのため、生涯にわたりスポーツに親しめるよう、地域の特性を活かした四季折々のスポーツを推進するとともに、いつでも誰でも気軽にできるスポーツを発掘し、関係団体とも連携を深めながら「町民皆スポーツ」の実現を目指します。

また、本町は、肥満傾向にある子どもの割合がどの学年においても高い現状です。生活習慣の改善等様々な取り組みが必要であるとともに、体を動かすことが好きである子どもを育てることが大切です。そのため、子どもたちにスポーツの楽しさを伝えるスポーツ教室の実施等、子ども向け

のスポーツの普及にも取り組めます。

毎年、全国から多くの参加者が集う「別海町パイロットマラソン大会」は、多くのボランティアの方々を支えられ、本町を代表するスポーツイベントへと成長しました。本年度の第38回大会においても、真心のこもった「あつたかい大会」を目指し、町民の皆様

の温かいご支援を賜りながら、大会運営の充実を図ります。スポーツ施設の整備については、町民ファミリースポーツハウス整備事業をはじめ、上春別スケートリンクの補修を行います。各施設の老朽化が進んでいることから、計画的な補修等を進め、施設の維持に努めます。

Ⅲ おわりに

平成28年度教育行政執行に係る方針の実現にあたっては、協働のまちづくり精神のもと、全町民の理解と協力が必要です。

別海町教育委員会として、将来を担う子どもたちのために、自らの力で明るい未来を開いていくことができるよう、学校、家庭、地域と密接な連携を図りながら、本町の教育振興発展に取り組みます。